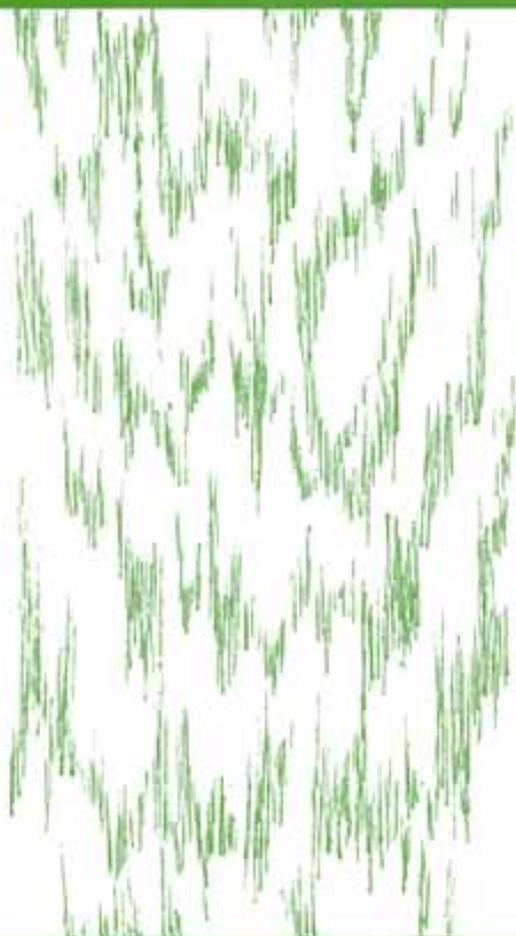


# 船団

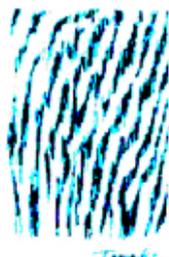
● 第82号

特集 II ROCK YOU!



## 蛙の知己

坪内 稔典



水落露石の句集二冊の刊行に関わった。

一冊は大阪俳句史研究会発行の句集シリーズ「大阪の俳句―明治編」の第四巻として出た『露石句集』（ふらんす堂）。これは露石の明治期の句を集めた『露石句集』（昭和十八年）をもとにして私が約五百句を選抜したもの。

露石のもう一冊の句集は『蛙鼓』（南方社）。こちらは大正期の自筆句稿であり、露石一周忌の配り本として写真版印刷された。その配り本を、水上博子らと「露石の会」を結んで解読し翻刻した。

露石は子規、漱石、碧梧桐、虚子などと親しく、明治の関西俳壇のいわば先駆者であった。たとえば関西の新派俳句の起点になった京阪満月会は、露石、寒川鼠骨、中川四明などを中心にして発足した。この露石、聴蛙亭と号して

蛙をとて愛したことで知られる。明治二十九年には友人知己から蛙の句を集め『蛙虫句集』を編んでいる。「蛙虫」は蛙の字を二つに分けたものであり、翌年には『続蛙虫句集』を出した

碧梧桐の序文のある『続蛙虫句集』はそのコピーが手元にあるが、先立って出た『蛙虫句集』はまだ見ていない。これには子規（獺祭書屋主人）の序文がある。その序文は講談社版『子規全集』第四巻に「蛙虫句集序」として収められている。

子規は言う。蛙は和歌の世界で有名になっていたが、いつの間にか田螺同様の存在になって忘れられていた。ところが、「古池に水の音たてしよりまたなき俳諧の本尊」となった。以下は引く。

こゝに露石子といふものあり跡を市井の間に混じ心を風雅の境に聘す車馬の響に右の耳を塞ぎ糸竹の音に左の耳をおほひ自ら数十の蛙を庭前に放ちて其清音をたのしむ蛙を養ふこと此人をもつてはじめとすべし今又ひろく相知れる人の句を集めて一卷となし名づけて蛙虫句集といふけだし蛙の知己なりわれ試みに汝蛙に告げむ汝妄りに主人に諂ひて鳴くなかれ俳句を鳴く莫れ俗調を鳴く莫れ両部の鼓吹を鳴く莫れ只汝の声を鳴け天真は風雅の本意なり

子規は蛙に自分たちの俳句のイメージを重ねている。「われ試みに汝蛙に告げん」以下がそれだ。「只汝の声を鳴け」とは子規が理想とした俳句の作り方であった。

ところで、未見の『圭虫句集』に子規は次の句を寄せたらしい。

蛙鳴くや蛙やしなふ君のため

この句、先の『子規全集』第二巻にある。前書きがあり、それは次の通りであった。

聴蛙亭主人に蛙の句を乞はれて書きてつかはす

官のために鳴くか私のために鳴くか

露石の蛙は、それを養う露石のために鳴くのだが、もちろん、「私のために鳴く」のだが、前書きのこの言葉「官のために鳴くか私のために鳴くか」は、中国の二十四史の一つ『晋書』にある故事を踏まえている。帝（惠帝）が皇太子だったころ、蛙の声を聞いて「此の鳴く者は官なるか、私なるか」とそばの者に尋ねた。官地にいるのは官、私所在地にいるのは私です、と応答があったという故事。この故事、『水経注』では、次のような展開をしている。「令して曰く、若し官の蝦蟇ならば、廩（ふちまい）を給す可し」。なんと官の蛙だったら給料を与えよ、と皇太子が命じたというのだ。

右の蛙の故事は、同僚の中国文学者、中原健二に教えて

もらったのだが、子規はこの故事をよく知っており、官ではなく私の蛙に肩入れしていた。そのことが『圭虫句集』に寄せた句からうかがえる。

実は、芭蕉を囲んでいた人たちも蛙の句を集め『圭虫句集』と同じようなものを作っていた。貞享三年刊の『蛙合』である。蛙を詠んだ句による二十番四十句と追加の一句、すなわち四十一句を集めた蛙の俳句集である。この本、芭蕉の知己が芭蕉の蛙の句を話題にして開いた一種の蛙パーティーであった。仙化の跋文によると、この句合わせは芭蕉庵に集まって衆議判で勝負を決めたという。皆でわいわい議論して盛り上がったに違いない。

『古今和歌集』假名序（紀貫之）に「花に鳴く鶯、水に住むかはづの声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける」という有名な言葉がある。芭蕉はこの言葉を踏まえ、荒れた草むらの池に蛙が飛びこむ音、その音に自分は「俳諧を聞きつけたら」と言ったらしい（『三冊子』）。つまり、貫之の声のきれいな「水にすむ住む蛙」が官の蛙（雅の蛙）としたら、芭蕉の古池に飛び込んで水音を立てる蛙は私の蛙（俗の蛙）だった。

私の蛙への加担、それが『蛙合』や『圭虫句集』になった。もちろん、一茶の次の有名な句にも

瘦蛙まけるな一茶これにあり

# 会員作品



坪内 稔典

残雪の山は遠景十八歳  
桜散る先祖に絵師と蘭学者  
桜散る解体新書開く窓  
白バラの白からやってきたか、君  
バラの名はマチルダ君は山田さん  
薔の字の七画あたりから緑雨  
緑立つ阿修羅像をば見に行く日

中原 幸子

アラフォーはどこシリウスは今あそこ  
春はいいなあ送り道けんか道  
ゆく春のシチュー寝かせている静か  
二児の父櫂の梢うすみどり  
おひとりでみどりの雨の行基さま  
あんみつや静かな人が勝つじゃんけん  
真四角な嘘こんにゃくの花咲いた

火箱 游歩

ひかり野やたんぽぽは私の聖書  
白木蓮いま崩れたら骨の音  
赤い靴の少女その後の白い春  
花ぐもり鸚鵡がしゃべるタガログ語  
人形の家に四月の陽が当たる  
妹は活字中毒桜は葉  
葉桜の鴨川左岸カフェテラス

陽山 道子

朧夜の溶けてゆくまで立っている  
春満月用事ないけどポストまで  
さくらさくら開けば溜るスクラップ  
白蓮の恋文展げられ青葉雨  
港は春赤レンガ倉庫まで歩く  
メーデーや爪を磨いて日が暮れて  
柿若葉素顔のまままで会いましょう



俳句・陽山道子

読み・平山真紀

## S字坂

廃校の桜の下の進化論

飛花落花きみにわたしに女院御所

柿若葉見知らぬガイドの後ついて

若葉して青葉して味噌汁二杯

不揃いの茅花のゆれる街角に

初夏の空き箱片方から潰す

朝曇火災報知器取り付け日

滝音がして滝へS字坂上る

「わたし、小学四年ぐらいから友達感覚でいたのよ」という長女。三人の子持ちで最近、野菜作りに目覚めた。ごく近所に住んでいてなにかと互いに助け合っているが、ベタベタした親子関係ではないと思っている。(道子)

だから、なんやねーん!

オチがなくて、大阪人には突っ込まずにはいられない。それが第一印象でした。

頭に情景は浮かぶのですが、だからどうなのか答えてほしい。落ち着かないのです。

もしかしたら、オチをつけないのが俳句?単純ではないのが俳句?

答えのない所に、揺さぶられました。

ただ、「廃校の桜の下の進化論」は、すごく好きです。イメージがぐんぐん膨らんで、想像の世界に、勝手に入り込んでしまいました。

久しぶりに絵を描きたい!

母の俳句にインスピレーションを受けて、創作意欲がムズムズしてきました。

まさに、ROCK YOU!

(真紀)

## 俳句・火箱游歩

## 読み・火箱保之

## 技有り！

水温む届かない声がゆらゆら

わが傷はわが舐め恋の猫が行く

あかんたれ洩垂れへたれあたたかし

ああ鳴けばかう鳴くカラス桜山

花冷えの鏡よ鏡百五才

緑雨して夢見心地の金魚かな

少年に青い揚羽が翳こぼす

愛だとか欲とかほうほう蛸とか

中学生の夫は、音楽の授業で歌うことを指否。「男が人前で歌など歌えるか」という理由。漫画「いがぐり君」にあこがれて始めた柔道は八段。某大学柔道部・空手道部部長。脳腫瘍と胃癌より復活。あ、歌は上手です。

(遊歩)

自分の人生に重ね、想像を膨らませるしかない。ということで、相手の俳句、柔道の審判方式で判定させてもらう。  
※一本←ロック度⑩・技有り←⑦・有効←⑤・効果←③・敗け←ドン引き

「水温む」(有効)、「ああ鳴けばかう鳴く」(大外刈一本!)。どちらも我が家のことか? ドキッ! 「わが傷は」(効果)、「何をこちゃこちゃ言うとか。喝!」「あかんたれ洩垂れ」(技有り)、兄弟揃って洩たれの写真有り。懐かしい。「花冷え」(反則敗け)、皺くちやで、百五才まで生きるつもりか。「緑雨して」(有効)、家には、まつりと一味という金魚がいる。時がとまっているようだ。「少年に」(引き分け)、わかるようなわらんような。「愛だとか」(本敗け)、私のカラオケ愛唱歌「北の蛸」ではなかるうか。

俳句はこんなふうにはかわからないが、一生懸命などこるに、合わせ技一本! (保之)

俳句・中原幸子

読み・筒井大祐

お、山が

大とんび大春とんび送る日々

お、山が笑ってる締め切りが来る

芥子ゆれて計画計画まだ計画

そのいけずキミにそっくり鯉幟

反抗はフリーハンドで桜桃忌

カコカレがブルブルってます春霞

さくらさくら敗者復活戦の夜

花霞この道なりにお行きやす

筒井大祐さんは佛教大学大学院のクラスメート。一九八二年四月、京都市生まれ。中世の説話や佛教文学を研究しており、夢の中で資料を探していることもあるとか。ほっとする笑顔と、ほっとする意見の持ち主。(幸子)

今回の特集は、普段俳句に親しんでいない人間を、どれだけ俳句で「揺さぶる」事が出来るか、という企画らしい。そんな挑発を受けたなら、受けて立たない訳にはいかないので、ちよつと中原さんの俳句を読んでみた。

中原さんの句は、「大とんび」や「山が笑ってる」のように、景物をただ眺めているだけでなく、その景物と詠み手がシンクロしているような感じが句から読める。

景物をただ句に詠み込むのではなく、景物とシンクロするという句が、中原さんの俳句の特徴なんだろうなあ、となんとなく感じながら句を読み進めていたが、「花霞」の句にまさに「揺さぶられ」てしまった。

「ROCK YOU!」と挑発を受けたので、少し身構えながら中原さんの俳句を読んでみたけど、結局、中原さんの思惑通りに「揺さぶら」れてしまった。そもそも「花霞」に「お行きやす」と言ってしまう中原さんに、太刀打ちできるわけがない、と思った。(大祐)